

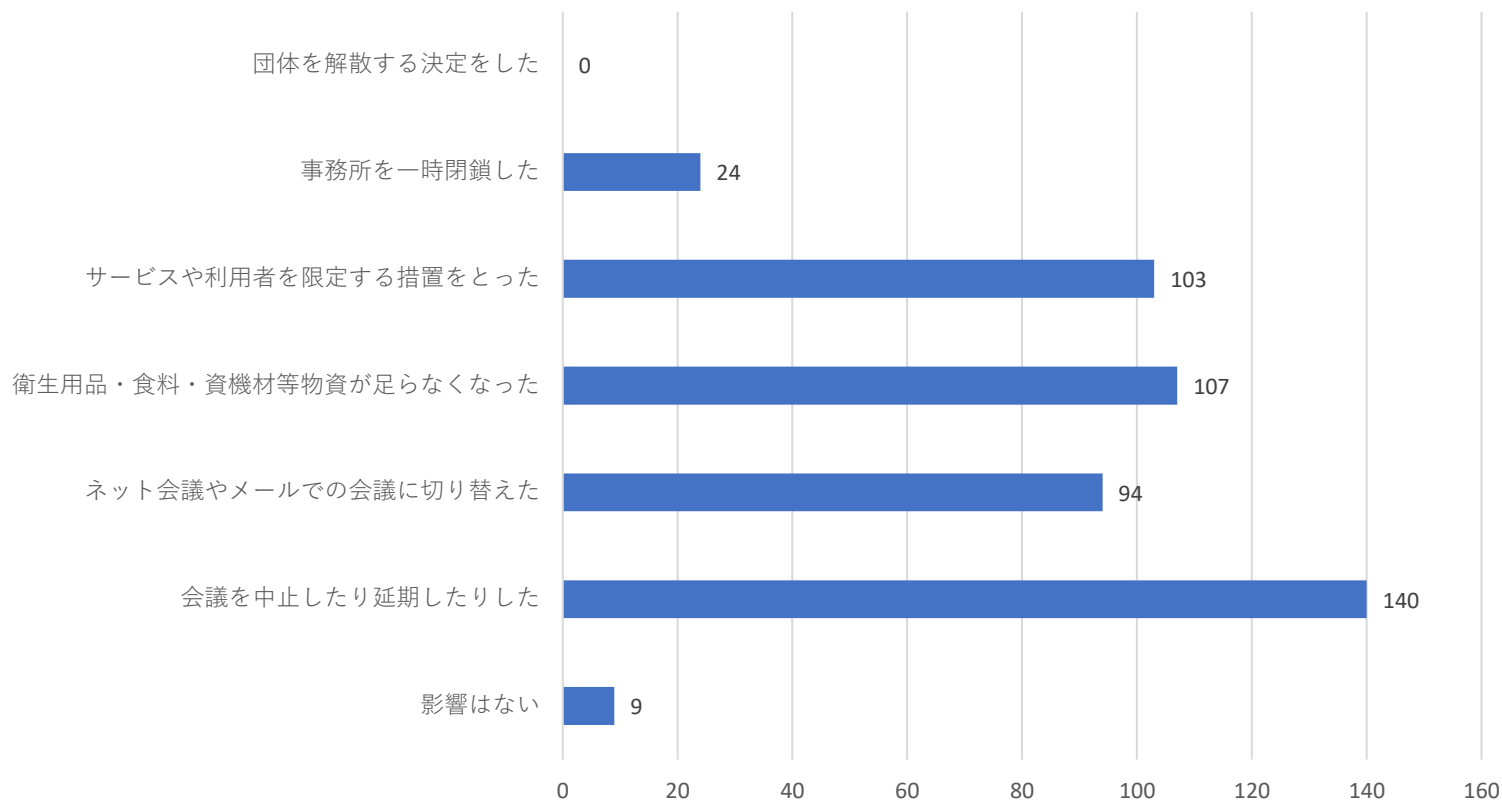
新型コロナウイルス感染症に関する意識調査結果

実施期間:2020年8月6日～8月31日

配布団体:淀川区内の企業、福祉施設、幼稚園、保育園、専門学校、NPO等 387団体

回収数: 188団体 回収率:48.6%

問1 新型コロナウイルス感染症が貴団体に与えた影響はどのようなものがありましたか。



■問1-⑧「その他」の自由記述

- ・行事（イベント）の中止、延期、・臨時休業(休校)、・一般診療の休止、・営業時間の短縮
- ・消毒に追われた。3密は保育園で行うことは困難と感じた。保護者への再三の配布物に追われた。
- ・隔日出勤、時差出勤の実施。
- ・学校の授業、行事、資格試験の中止
- ・看護専門学校授業再開時も密を避ける措置を実施
- ・受注業務が減り事業売上に影響
- ・短期入所支援、日中一時支援等での受け入れ制限を行った
- ・テレワーク検討のきっかけとなった（働き方改革）
- ・電車通勤の職員のみ休んでもらった
- ・ビニールシート、木材でパーティションを作成した
- ・病院の受診、入退院について制限を行い調整等要する。面会者や冠婚葬祭などの外出制限
- ・保護者の送迎時の手洗い消毒。室に入らないで廊下での対応。業者は玄関での対応。
3密にならないための保育の工夫。行事の延期。
- ・ボランティアの方々によるレクリエーションの自粛等、外部の方の来訪を制限、サービス内容に変更が生じた。又、外出の禁止、ご家族との面会制限等、ご利用者にとって不自由さが生じた。
- ・マスク、消毒薬等の不足。全体朝礼の中止。見舞い、面会者の立入中止
- ・面会の原則禁止、自粛、時間、場所規制及び職員の私生活の制限
- ・利用時間の短縮やテレワーク中の利用を控えるようお願いした
- ・利用者、その家族の感染症に対する不安から介護サービス利用中止があった
- ・利用者の一部にスタッフがコロナに感染しているのではないかと疑われ、その為、売上が落ちた
- ・利用者の定期健診を本人が拒否する事が多い。（感染回避の為）対応の変更が多くあった
- ・利用を自粛される方がいた
- ・例会（舞台鑑賞）を延期しました。又、現在はキャパ数の限定その他対策を取って実施しています

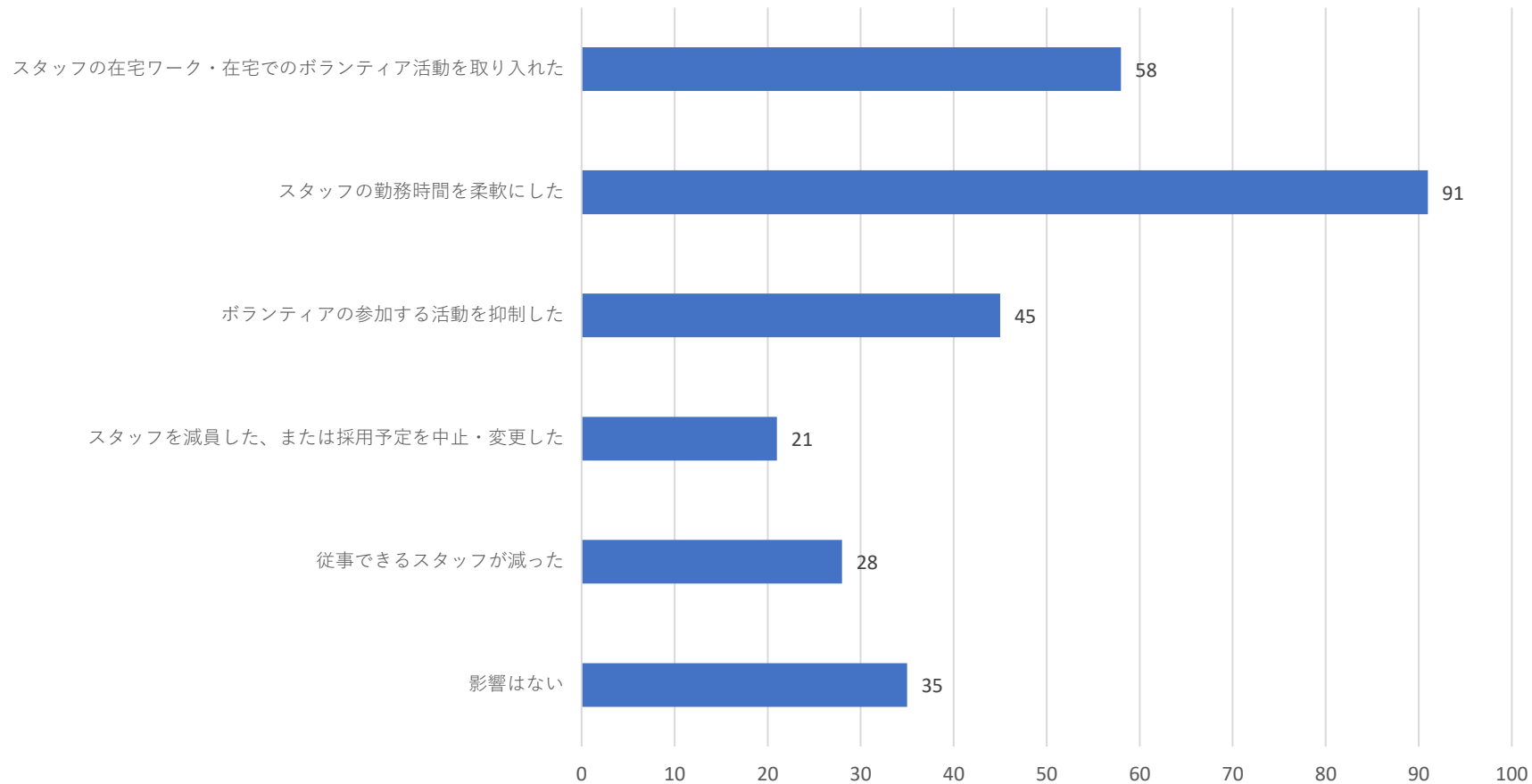
問1-2 地域とのコミュニケーション（連携）が弱くなったと感じること

・校区内の小学校との連携。
・地域高齢者とのふれあい交流。・施設開放中止による地域交流。
・地域の行事、夏は盆踊り等協力させて頂いてたがコロナでそれらがなくなり、地域との接点がなくなった為。
・アナログに頼るところ多く、情報が不足、遅れがちであった。
・会議の中止、地域イベント（盆踊り等）の中止。
・会議を中止または延期した関係で、他事業所との情報交換や情報共有の機会が減少した。 予定していた外出行事が、訪問先施設の休館などにより実施できなくなった。
・外部からのレクを一切中止、家族との面会も中止。
・顔を合わすことが極端に減ったことで状況がつかみにくくなった。
・感染者等の連絡が（情報）入らず連携とは（何をもって）名ばかり。最初から弱いと思う。（勝手な事業所まかせをしている）
・緊急事態宣言発令中は会うことも少なく、解除後もソーシャルディスタンスをとり、長時間話さない様に気を付けているため。
・講座や集まること自体が反社会的なイメージとなってしまった。
・ご近所さんとは挨拶くらいしかない。
・地域町会等集まる事が無くイベントも無いので人と会うことがなくなり弱くなった。
・子育て支援の会や、園見学等が行えなくなったので外部者とのコミュニケーションがとれない。
・在宅ワークが基本となったために従業員のかなりの部分が淀川区に来なくなった。
・様々な行事が中止となり、顔を合わす機会が減少した。
・小学校の講演が中止になったこと。手話通訳の必要性をわかってくれない。
・ソーシャルディスタンスを重視する事により、地域との会話が挨拶程度になっている。
・対人接触に皆さんが過敏になっており、連携が難しくなっている。
・地域での集まりが中止になったり、敬遠されたりとコミュニケーションを取れる場がなくなってしまった事で連携が弱くなった、難しくなると感じています。
・地域との交流の場である行事等がなくなった。
・地域の集いの場がほとんど開催出来なくなり、地域の方と顔を合わせる機会がなくなった。コロナを恐れて人の訪問を拒否する方もあり、支援のしにくさも出て来ている。
・地域の役員をしているが、会合が開けなくなり自治会の役員とお会いできなくなった。
・直接接触する機会が減るので、特に会合等は短縮になりがちで、自宅と職場の往復、限られた人達とだけすすため、新しい関係が結べない。
・直接話し合う場（担当者会議等）が延期される事が多くなり、情報交換が薄くなったと感じます。
・月に一度、区役所で行われる同業種の会議がなくなり、通所している児童の幼稚園や学校などとも連携がとりづらい。
・夏祭りも中止になり、地域の一体感が体感出来なかった。
・人との接触を控えることにより、何か月もお顔を見ていない方が増えた。集まりや会合がなくなった。
・訪問出来ない、訪問されない、お会いする機会がなくなった、現在もかなり減っている。
・ボランティアの受け入れを制限したため、利用者との交流の機会が減った。
・メールのみのやり取りになりました。
・面接できないためのコミュニケーション不足や会議、定例会の中止による連携が弱くなっていると思う。
・役所の要請がある。スタッフが怖がってしまった。
・レクや地域とのコミュニケーションを中止せざるを得なくなりこれだけ長い期間となると連携が弱くなるとともに入居者のストレスが溜まってきている。
・老人ホームや介護施設との交流が当面見送りとなっている。

問1-3 地域とのコミュニケーション（連携）が強くなったと感じること

- ・行事の中止や延期などに理解いただいている。HPによる情報発信を積極的におこなっているため。
- ・以前から地域との交流があり、特別強くなった感じはないが、地域の方から声をかけてもらう際も、感染症予防に配慮してもらっている感じを受けてる。
- ・行政や近隣の他施設との連携が取れるようになった。
- ・近所の薬局から消毒用アルコールを寄付したいと申し出をいただいたりして、地域の皆様に支えられていると感じることがありました。
- ・近隣企業との意見交換を行い、対策を検討する場面がありました。
- ・声かけ（心配して頂ける）が増えた。
- ・情報の共有や施設間での物資状況など共有可能や、寄贈等頂けたりした。
- ・対策に関する情報交換が活性。
- ・地域の学校や同業者さんとは連携している。
- ・地域の協議会よりマスク、消毒液の提供があり大助かりでした。
- ・知事・市長の発言が身近に感じ強く連携している実感があった。
- ・強くなったとは思えないが、関係機関とは今回の問題に対しての対応など相談したり、情報交換し合い助け合うという意味で強くなったのかも知れません。
- ・電話（メール）のやりとりが増えました。
- ・当院の患者を地域医療機関へ紹介し、診療を継続していただいた。
- ・マスク等を寄付していただいたりしました。
- ・マスクや消毒液などの寄付があった。
- ・見守りがより強化された。
- ・利用者の体調管理や地域の感染状況を把握するため、家族や学校との連携を十分に行う必要があった。感染予防のための消耗品（マスク、アルコール、手洗い石鹸等）の販売・配布の情報を地域の事業所と共有し、不足分の消耗品を分け合う等の協力を行った。

問1-4 スタッフ（又はボランティア）について



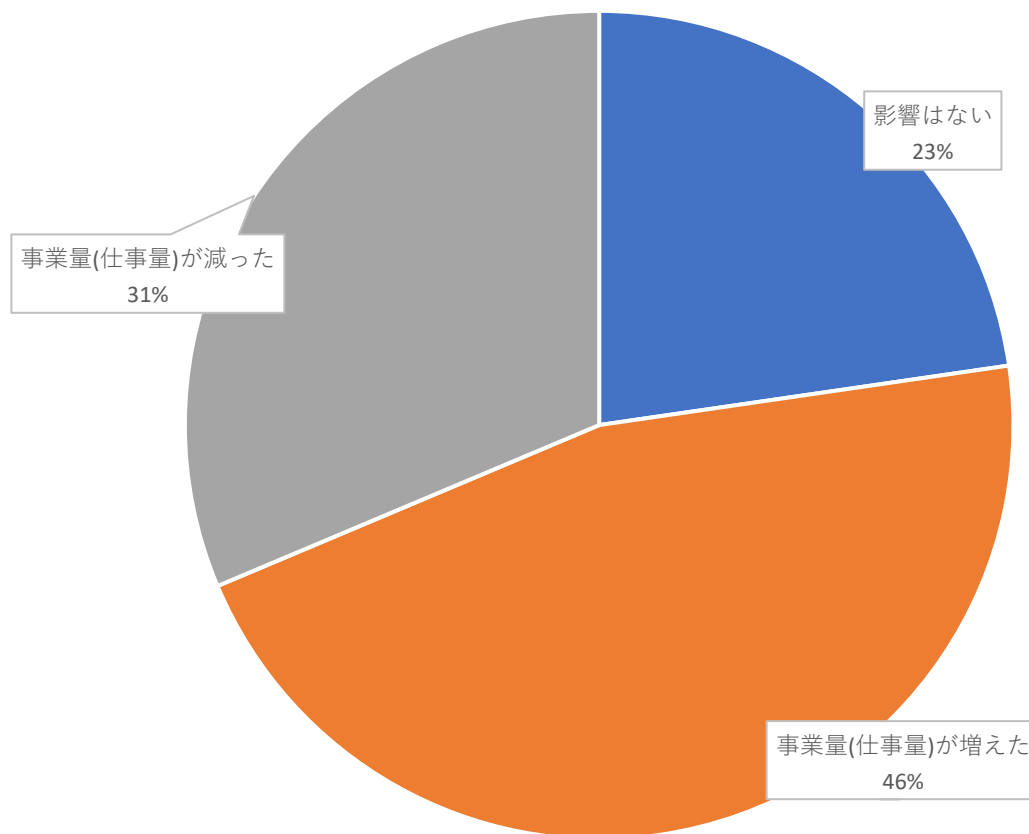
■問1-4-⑦「その他」の自由記述

- ・4、5月と2ヶ月間、保護者に保育の協力をしてもらい職員は順に自宅待機した。
- ・4～6月は外部の方の入館をお断りした。
- ・4割減ですが利用者が来ているので閉所出来ず赤字営業。
- ・イベントなどの中止でボランティアの必要も減少した。
- ・今は難しい。
- ・感染予防対策を徹底し、お互いに接触しない様にした。
- ・勤務者全員の日々出勤時の検温を行うことで時間がとられることあり。
- ・交通機関が混雑する場合、車での出勤を許可した。小学校、保育園等が休校した場合、ある程度の勤務シフトの調整を行った。
- ・事務所内の環境を整備した。
- ・順番に休みをとったり、シフトを組み直したりした。
- ・スタッフの在宅ワーク（一定期間）。・スタッフの出勤日数を一時減らした。
- ・全国の系列保育園内で唯一休園することになった為、在宅ワークにて会議や事務業務を行いながら、保護者との連絡（様子伺い）を取り合う。
- ・出来るだけスタッフ間でもソーシャルディスタンスを考え、コロナにかからない様になっている。
- ・皆、不安を抱えながらも業務を続けているため影響がないわけではない。
- ・私共の団体では、活動に関わる人の意志に変化はありませんが、子どもや高齢者の親などの環境の変化により活動に関わりにくくなっているという現状です。

問2 事業（仕事）について

n=182(未回答6件)

*仕事量が増えた・減ったの利用法にチェック3件



問2-2 事業量（仕事量）が増えたと回答した場合

・感染委員会の開催、物品の購入に時間がかかる。・消毒、掃除に時間がかかっている。

・助成金、交付金などの事務手続きの増加。

・感染のため、1Fに体調チェックをする担当者をおいた。

・施設備品の消毒作業・オンライン授業の研修や授業ツール作成など。

・児童、職員の健康チェック、情報提供、相談件数の増加。

・在宅勤務制度の開始に伴うルール作成要。

・ホームページやYouTubeの教材の作成や準備。・行事の見直し会議が増えた。

・朝から受け入れ（学校が休校になった為）になったので大変だった→夏休み等の長期休みは事前に準備をしていたが、急な休校での対応となった。

・不安になった保護者様からの相談の問合せが増えた。

・三密を避けるための対策。・除菌清掃（玄関、EV、トイレ）。

・訪問者ガラス戸越し面会、立会い、セッティング。・リモート面会（タブレット使用）立会い等。

・職員会議を短縮又は中止のための具体的対応策を文書で配布して来たが説明も加わり量が増えた。

・保護者への配布や説明、消毒の回数が増えた。

・面会者制限等によるオンライン通話等の対応。

・平時の感染防止対策に加え、一層の感染防止対策の徹底にマンパワーが必要。

・外出活動が制限された為、利用者が満足出来る代替活動の補充。

・職員のメンタル面の支援がより重要になった。

・保護者への給食費等の返金に伴う事務作業やの案内（対策等）の作成と配信。

・Webによる授業となったため、資料作りなどの作業が増えた。又、新しいWebシステムを理解するために業務が増えた。

・営業時間の短縮があったので、短い時間でコロナ前の取引量をやらなければならないとなった。（コロナの影響で仕事量は減らなかった）

・衛生管理（玩具、ドア、床など）消毒することが増えた。食事等の際、子ども同士がひっつかないよう配慮。行事、保育内容の変更のため会議が増えた。

・園児受け入れ時の検温、玄関での園児受け入れ。家庭保育協力の方へのお知らせ郵送。連絡。慣らし保育期間がなくなった為、園児、保育士の負担増。

・感染予防に関する対応、スタッフの検温や体調確認をはじめ利用者を迎えるにあたり、送迎時の検温や、車から施設にいたる部分の消毒、利用者や家族関係機関への案内物や文章の作成等々。

・行政の手続きが増えた。

・子ども達が休みに入り、朝からの預かりの利用児が増えたため。

・コロナウィルスの対策やもし出た場合のシミュレーション等の時間を取っていたため。

・コロナの対応策として密を減らすため教室の配置変更やビデオ活用の実施、生徒に対する検温や消毒措置の実施。

・在宅での訓練への対応、行政への連絡等これまでになかった支援内容が加わった為。

・在宅ワーク（障がいのある）の人の支援が増加。通所等も閉まり、在宅系の支援調整が増えた。

・自粛後の保育園再開時は現場でしか出来ない業務（事務等）が滞っていた為。

・投産作業取引先の新規開拓と継続のために時間を要した。消毒作業が増えた。行政等からの通知文書や事務連絡が増えた。

・役所からのメール確認、家庭保育で協力頂いている家庭に対して健康観察の電話連絡。

・職員の人数調整やシフト変更、保育料減額分の返金手続きや保護者への返金、領収書のやりとりなど。

・職員の日々の健康管理の聞き取り他、出勤時の検温他、職場出入する人の検温他通常業務にプラスしての業務が多くなった。

・新規受け入れの制限。利用者が自ら自粛をして利用者数が減少した。病院から退院された利用者は自宅待機期間を設けた。

・スタッフを減員し仕事が増えた。精神的負担が増え仕事にも影響した。

・訪問の回数が増えたり、対策のための仕事内容が変わると新しくしなければならない事が増えた。

・保護者への連絡（コロナ関連）が増えた。日々、役所からの通知と照らし合わせて内容を考え配信（アプリ）していた。

・利用者人数は減ったが、学校が休みになり開所時間が長くなった。

問2-3 事業量（仕事量）が減ったと回答した場合

・アウトリーチ支援（家庭訪問してカウンセリングと学習支援）を一旦中止している。

・フリースクール生の減少などの有料業務の減少。・地域サロンで貸室業をしていたが、利用が減った。

・コンサートを開催していたが、出来なくなった。

・取引先が休業し、仕事が回ってこない。

・行政から利用自粛の通知に従って。

・一般診療を休止し新型コロナウイルス感染症患者を専門に診療する病院となったため。

・一般的な移動の減少、おでかけの減少。

・イベント、会議等ほとんどが中止になったので。

・イベント、キャンペーン等がほぼない状態でそちらの売上げが大きく減となった。

・営業時間の短縮。

・お客様が減った。（コロナで来店者が減った）

・学校イベントの中止。

・観光客数の落ち込み。

・患者が減ったのか利用者が減った。

・感染拡大を懸念してイベント売り出しを中止した為。

・基本の保育業務が出来なかった。但し子供達がいつ登園してもいように環境設備・準備はしておく。

・休園したので、職員も休ませた。

・県をまたぐ移動が自粛傾向の中で人の移動が減り、商品が売れなくなってしまった。

・ご家庭で過ごす！との事で利用者の人数が減ってしまいました。

・子ども食堂は4,5月は中止、6,7月は持ち帰りのみとして実施。

・自粛期間中は家庭保育に協力して頂いた家庭が多かった分、子供の出席者が少ない日も多々あり、保育に費やす労力が減ったと思う。

・就労の外部受注が減りました。

・新規のご利用者様の受け入れを控えていた。また、現在利用中の方も、休まれる様になった。

・生徒の家庭が旅行関係や外食関係の方が月謝を払えない等の理由で教室を辞めた。

・外回りの仕事がほぼなくなった為。

・大学の大半が通学がなくなったり、立入を禁止したために営業の大半が出来なくなりました。

・地域での集まりや、会議、研修などが中止や延期になった為。

・通所利用者の受け入れを停止したため送迎や支援業務は減った。外部会議や研修会の中止や欠席が増えた。行事（旅行等）を中止した。

・登園児童数の減少（家庭保育協力してくれた為）保育、事務作業を分担した。

・得意先の事業活動中止、得意先担当者の在宅勤務により進行出来ない、海外製品が入荷しなくなった。

・人数制限（コミュニティ）、こちらから積極的にお誘いできない。

・不要不急の外出を控えられた為、来店数が減った。

・弊社は葬儀社ですが、される規模、呼ばれる方の人数が減ったため。

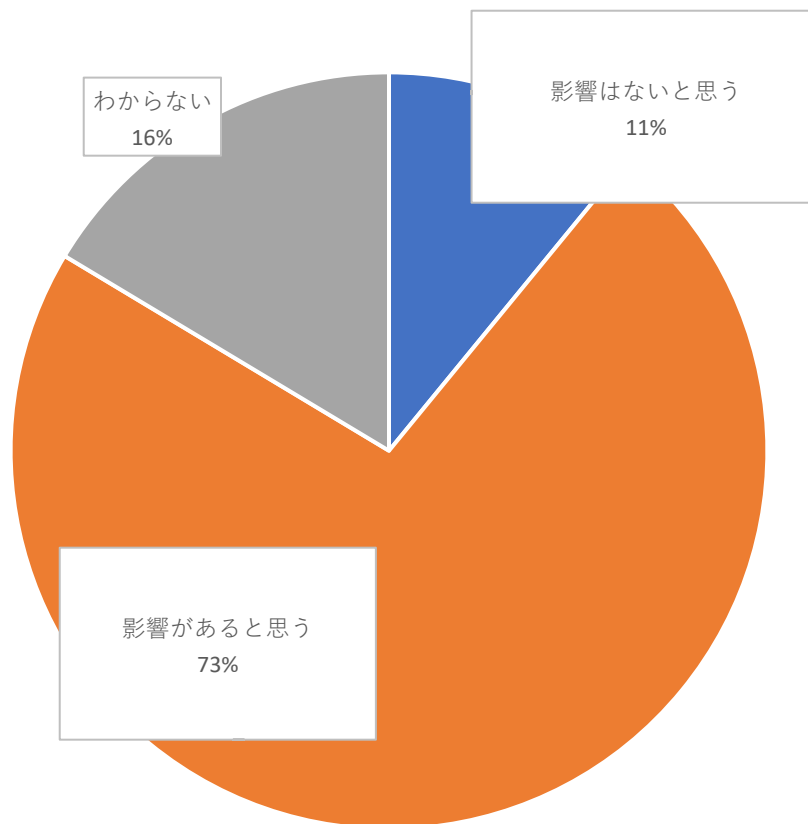
・ホテル業であり、宿泊・会議・宴会・ホール・レストラン・ラウンジ・婚礼事業全てにおいて利用客が減った。

・窓口の営業時間の短縮等を行った（緊急事態宣言発令中）。

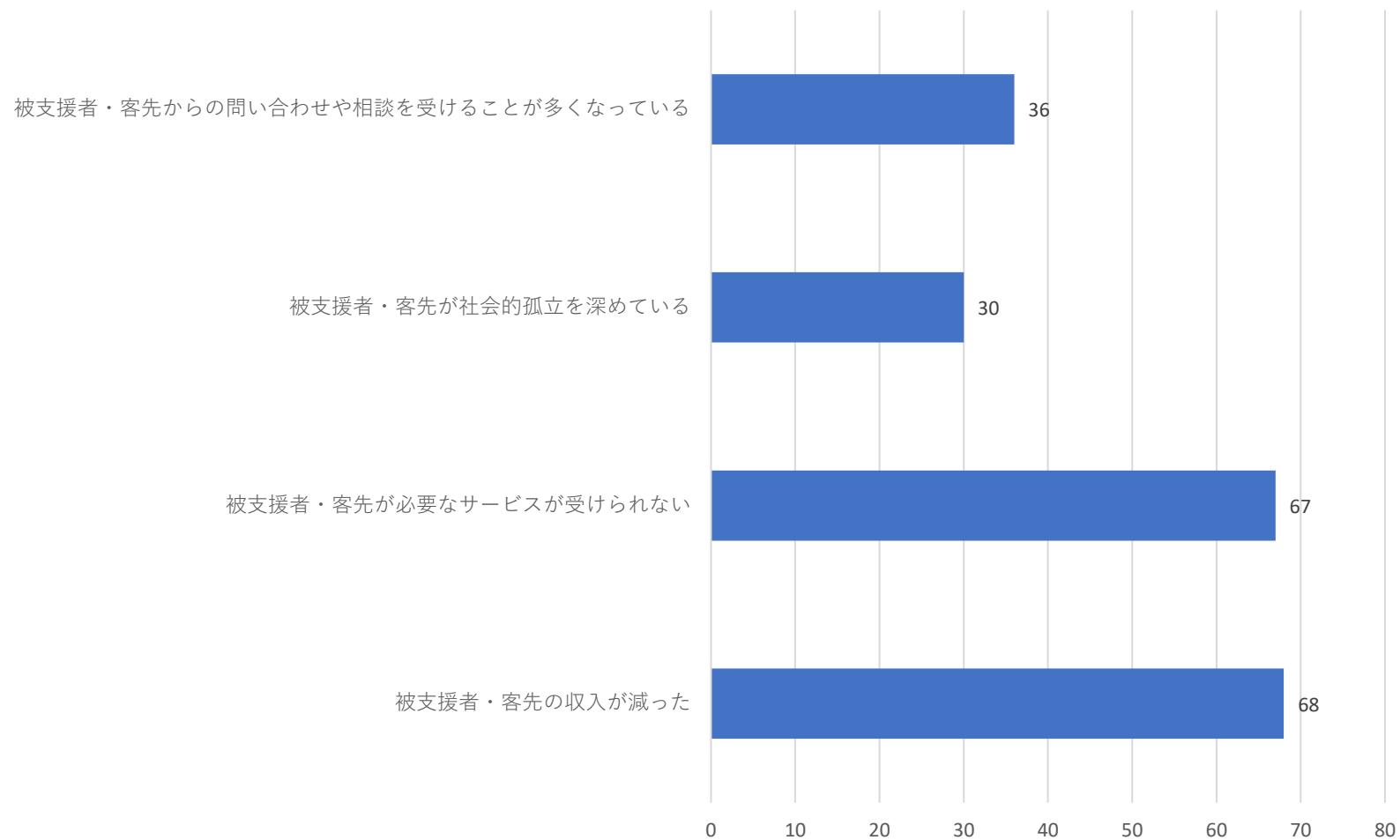
・利用客そのものが90%マイナスした為、一部事業において休業とした。

問3 新型コロナウイルス感染症によって貴団体が支援したり関与している人々、客先に影響がありましたか

n=182(未回答5件)



問3-2 ②影響があると回答した場合



■問3-2-⑤「その他」の自由記述

- ・月1回の子育て支援を中止した。
- ・保護者参加の行事をすべて中止にした。
- ・4月・5月 2ヶ月間、外部のご利用者様に自粛して頂いた（一部の方除く）
- ・イベント、演劇、映画製作が従来の方法では出来なくなった。
- ・今までしていたことを今年はしないことにした、というお客様が何人かいらっしゃった
- ・遠足が中止になりバスの利用がなくなった
- ・課外授業がなくなった（リトミック教室、体育教室など）
- ・学生のアルバイト先（老人施設）、寮（他の学校の学生や一般社会人も入寮）など学校外での感染（うつす、うつさない）に気を使った。大阪の大手の日本語学校でコロナ感染が出て、その学校に寮の学生も通っていることが分かり、濃厚接触ではなかったが、大事をとってアルバイトを休ませた。
- ・食品の納入業者が倒産した
- ・スタッフドクターに会って安心感を得て居た人達が感染を意識して接触を控える様になっている。
- ・生徒の学び方に変化が生じた。就職環境が悪化している。
- ・認知症が加速。外出自粛生活から筋肉低下により足がおぼつかない高齢者が増えている
- ・普段利用しているサービスが受けられない。外出出来ないことによりADVが低下してしまっている。
- ・ホームステイ期間が長期になり、家庭内でも過ごす時間が増えた為、日々成長著しい乳児（0歳～2歳児）は「戸外活動も制約され、ストレスが溜まっている」との声がどの家庭からも聞かれた。
- ・面会制限をしたため、ご家族と会えなくなり、心理的、精神的に不安を持たれた方もいると思います。
- ・利用人数の制限や大きな声を出すサークル活動等ができないこと

問4 3つの密をさけるための工夫

- ・保護者参加行事のとりやめ
 - ・活動の見直し（集団での活動を減らす）。
 - ・行事の中止、変更。時間短縮。
- ・利用者の集会を中止した。施設行事を中止した。換気回数を増やした。通所利用者の登園時刻を通勤ラッシュ時間帯を避けるよう調整した。
- ・教室での医師講座をやめて全てオンライン講座にした。
 - ・集会会議や研修をオンライン方式に変更。不要不急の会議等は中止、TV電話会議。
 - ・医療相談もオンライン相談に切り替えた。
 - ・家庭保育への協力依頼により、児童の数を減らすと共に、職員にも自宅待機をお願いした（4～5月）
 - ・窓を開け、こまめに換気扇を回す。空気清浄機、サーキュレーター導入。
 - ・保育の現場で密をさけることができないが、密閉にならないよう、換気はこまめに行っている。
- ・行政指針通り実行。常時、換気・食事の時間をずらしたりテーブルや座る場所の工夫、活動内容の見直し。
- ・ソーシャルディスタンス確保を促す周知文の掲示。
 - ・時差出勤、マスク着用、手指消毒の徹底手洗いの徹底。
 - ・窓口にビニールカーテンをしている。混雑する時間帯を表示して、お客様に周知した。
 - ・休園措置、時差登園、出勤時間の調整など。ロッカールームの出入り人数の制限。
 - ・使用部屋、施設設備や玩具の消毒。手指消毒、入室時検温、飛沫防止ボード設置。
 - ・アルコール消毒の常備と来館者の体温測定の依頼、生徒、講師とも全員マスク着用。
 - ・3人掛けの机の両端しか使用せず二人掛けにした。
 - ・お待ちのお客様へ間隔をとるよう注意喚起のポスターや足型を床に貼った。
 - ・午前・午後のシフト制（交代）とし密集を減らした。
- ・ご自宅に滞在していただき、こちらから1軒1軒訪問する事により、3つの密を避ける工夫をした。滞在時間を10分以内と定めることもした。
- ・ご利用者が1か所に集中しないようにしました。
 - ・事業所内で一定の距離間を保つために、使用PCの半分を会議室へ移し、間隔を空けるように努めた。
 - ・スタッフを減らす。
 - ・ソーシャルディスタンスの確保。全員が意識して行動できるように啓発した。（会議の延長、人数制限）
 - ・ふれあう活動を避けるようにした。
 - ・会議、ミーティングは少人数でおこない、間隔を空けて座るようにする。
 - ・会議の縮小、中止。職員食堂を時間制、分散している。更衣室、EVを分ける（施設、デイ）。
 - ・会議室をオフィスとして利用。
 - ・給食、おやつ共に一方的で座らせてきている（密接を避ける）。
 - ・座席の間隔を開ける。エレベータの人数制限。入場者数の制限。
 - ・事務所、在所スタッフを制限した。会員の訪問は予約制にした。
 - ・窓口の混雑状況をお知らせするポスターを張り、できるだけその時間を避けていただくよう周知。
- ・利用者数を調整し、1日の利用者数を減らした。また、アクリルボードを設置したり、サーキュレーターを購入し設置した。
- ・テレワーク可能な部署の採用。
 - ・携帯電話での連絡を多くして集まる機会を減らした。

【子ども食堂】・3月 マスク、手指消毒、・4月、5月 中止、・6月、7月 持ち帰り、・8月は検討中

・2ヶ月に一回開催している会議を書面での開催に切り替えた。

・一日の支援時間を前半後半に分け、利用者を半分ずつのチームに分けて、公園・河川敷等屋外での運動遊び<屋内の活動と交代で少人数で活動して密を避ける工夫を行った。利用者、支援者ともにマスク着用とし、マスクが苦手な利用者には、フェイスシールドを活用してもらった。また、食事介助の際には、職員は、マスクとフェイスシールドを着用した。

・園見学者は1回につき1組（大人1人）に限定し、保育室には入らない。事務所で説明。

・介護職がメインの事業所なので回避ができない場合が多いのでスタッフに注意するよう伝えている。

・会議室フロアーは利用がある際に窓を開け換気を行っている。会議、宴会、レストラン、ホール利用の定員を50%未満で行っている。宿泊、レストランにおいて飛沫防止用アクリルボードを設置した。エレベータ内に定員を半分以上に減らすよう足元にピクトグラムを配置した。

・学校ではなく、寮の食堂を使用しての授業。（語学の勉強の為、一方的に教員が構成する授業スタイルのオンライン授業は難しいと思いい、教員が寮で宿題のチェック質問を受ける。連休明けからは授業も実施したい）

・給食時、対面ではなく、一列での食事にした。午睡部屋を広い所にするためホールや部屋を広げた。プール遊び短縮。プール入水を少人数でのグループに分けて入水するため必要以上の職員がいった。職員、保護者ともマスク着用。行事遠足等すべて中止した。職員会議は1人1テーブルにして密にならないよう配慮。

・仕事内容（乳児保育）的に3つの密を避けることは難しいが（密接）換気、給食時の食べさせ方、午睡時のベットの置き方を重点的に行っている。又、担当制保育を行っているため日頃から少人数で活動出来たのは良かった。

・子どもたちに分かりやすい形で日々、話をしている。

・子どもと保護者の食事は別々にした。（密接を避ける）

・出張の抑制。車通勤。社用車利用出勤。

・書面による議決権行使の協力要請（会議出席者の最小化）。

・職員、学生全員マスク着用。全館消毒液設置、分散登校、オンライン授業の実施、時差出勤。

・特養での家族面会中止。

○食堂の使い方

・工場の方が使用し1テーブル3人までにした。・食事中、休憩中の談話をしない。・業者の入場（入室）禁止（商談含む）にした。

○個人の行動について

・体調に不調が見られた場合は会社を休んでゆっくり休ませせる。

・夜間から早朝に営業する接客を伴う酒場への出入り自粛

○お客様への案内

・施設ご利用時のソーシャルディスタンスの確保（テーブル、椅子の間引き）

・消毒液の設置（対面するところ全て）、アクリルボードを介しての対応

・EVは4名までに制限

・外気の取り込み（トビラ開放）

○保育活動におけるソーシャルディスタンス

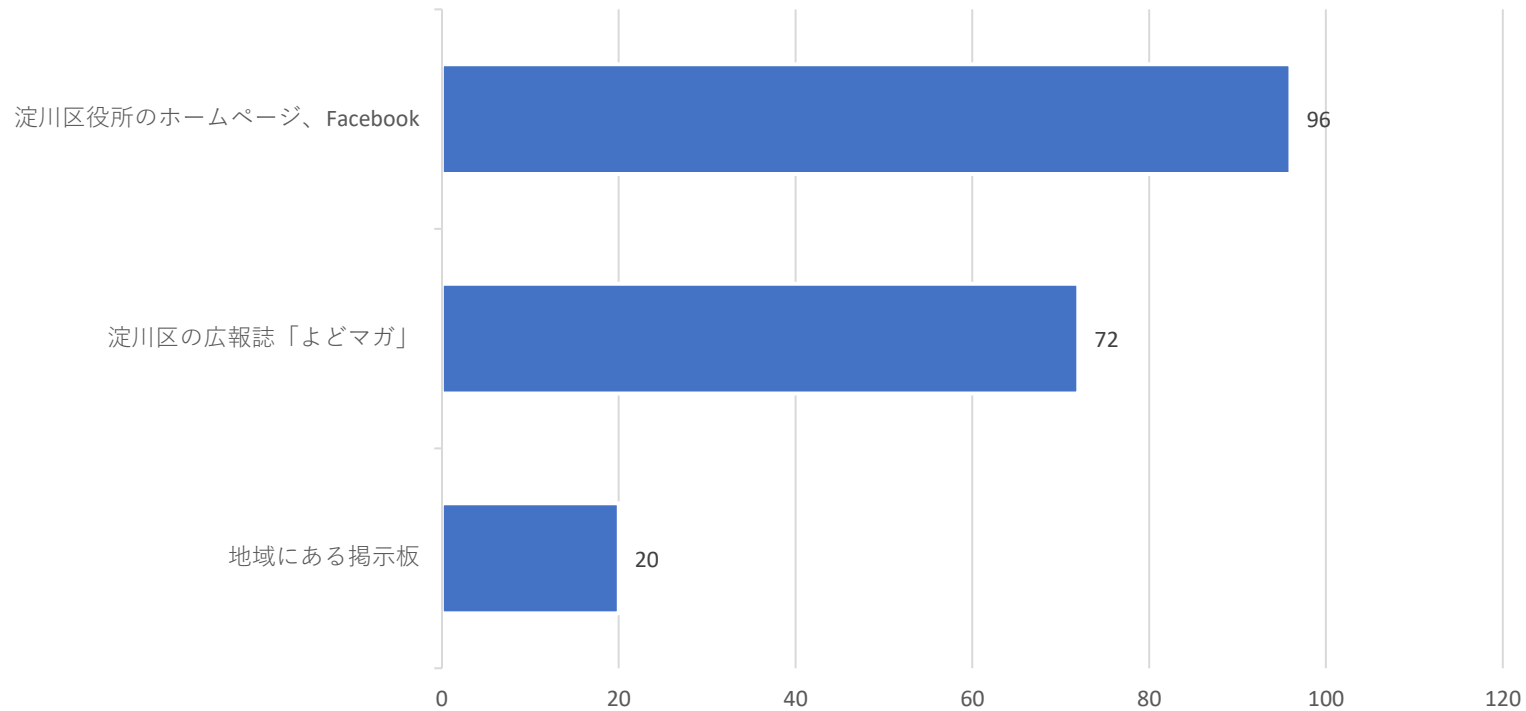
・食事：出来るだけ間隔を空ける

・午睡時：コット（ベットのようなもの）を置く間隔を空ける。

・遊び：出来るだけ距離を空けて遊べるように玩具のセッティングをしたり工夫する。

※保育園の性質上、全てを分けたり、非接触にすることは難しいが、出来るだけ三つの密は避けるように心がけた。

問5 コロナ禍において、淀川区の情報をどこから得ましたか（複数回答）



■問5-④「その他」の自由記述

- ・ SNS。
- ・ 大阪市ホームページ
- ・ 行政からのメール
- ・ 行政への直接連絡
- ・ 近所の方。
- ・ 近隣の小中学生の親であるスタッフ又在宅ケアの際の利用者など。
- ・ 区役所、青年局からのメール。
- ・ ザ・淀川、区社協。
- ・ 社協を中心とした連絡会。
- ・ 周囲の人々の会話。
- ・ テレビのニュース等。
- ・ 保護者からの情報提供。
- ・ 淀川区教育委員会HP。大阪市福祉局からのメール。
- ・ 淀川区役所のLINE。
- ・ 連携事業所。

問6 新型コロナウイルス感染症予防対策について、今後どのような対策・工夫を考えていますか

- ・3人掛けの机の両端しか使用せず二人掛けにした。
- ・床・机の消毒拭き。
- ・全ての窓の隙間を空ける。
- ・換気後の常時稼働。
- ・アルコール消毒設置、生徒、講師とも全員マスク着用、体力をつけるなど。
- ・入室前の手洗い。

- ・アルコール消毒液、ジェル、手指消毒、使用したものを触れた物の消毒。
- ・換気、利用者のマスク着用（子どもは強制ではない）。
- ・来館時の体温測定。
- ・消毒剤、マスク、ペーパータオル等の備蓄。

- ・今まで通り、消毒や手洗いを徹底すること。
- ・調子の悪い園児（熱）24時間は自宅待機してもらう。

・インフルエンザが流行る時期にむけて対策が必要だと考えている。

- ・大阪市より発信の「PCR陰性反応が出たら」のマニュアルをもとにそうなった時のシミュレーションなど職員間で話し合っておく。
- ・来訪者には来園者カード（健康状態チェックリスト）に記入いただく。（検温、手洗い、手指消毒）

- ・感染予防用品の充足と備蓄を念頭に必需品購入と在庫状況の把握に力を入れる（マスク、ゴム手袋、消毒液）空気清浄機（ウィルス除去）の導入。
- ・館内の出入業者等、特別要件、必須点検等重要な事由のある場合を除き、当面の間、入館をお控え頂いている。

- ・基本予防策（うがい、手指消毒等）の徹底を啓発。
- ・産業界との連携強化。
- ・海外、国内出張の管理。
- ・全社的な働き方改革を検討。

- ・行事の関連（少人数、時間制にする等）。
- ・遠足（公共交通機関は使わない）または中止。
- ・園見学（少人数、短時間で行う）。

- ・子ども食堂・持ち帰り、時期（季節等）を見て屋外での食事。※消毒、三密を避けて。
- ・学習会、交流、体験等、実施する場合は参加人数を調整する。

- ・実習生、ボランティア等へ感染症対策の徹底。
- ・室外活動については、活動場所、混雑状況によっては制限する。
- ・WEB等を利用した面会等を企画中。

- ・自分も含め、家族の体調管理をしっかりとおこなう。
- ・園児の家族が発熱の場合も、欠席をしてもらいクラスター発生を防ぐ。

- ・社員に対し、手洗いの徹底、マスク着用、朝の検温。
- ・定期的に換気を行うとともに、お客様のご利用スペース等の消毒を行う。
- ・お客様へもマスクの着用を促すポスターの掲示。

- ・職員、実習者のマスク着用、手指消毒の徹底及び毎朝の検温の実施。
- ・こまめな換気とこまめな消毒作業（施設内・おもちゃなど）。

- ・職員は出勤してきたら保育室に入る前に、マスクを新しい物に変える。
 - ・宅配等業者からの受取を門まで出て行う事の徹底。（玄関に入らないよう）
- ※2点とも現在も実施しているが、より徹底する。

- ・職員一人ひとりの感染予防意識の向上。
- ・外部からの感染防止、または制限。
- ・訪問者の制限。
- ・新型コロナウイルスの新しい情報把握を行い、適切な対応を行う。

- ・対面授業とメディア授業を併用するためのカリキュラム開発。
- ・オンラインでの実習、産学連携活動の実施。

・手洗い・うがい・消毒・検温の実施・マスク着用は引き続き徹底する。但し、呼吸しづらいなど、この時期、熱中症の危険性も指摘されているマスクに替えフェイスシールドを着用し、飛沫 感染から守るだけでなく、子供と保育士がお互いの表情を読み取りながら触れ合うことが出来る保育を可能にする。

- ・感染症議にて情報共有していく。
- ・職員への感染リスクの研修。
- ・地域との情報共有と協力体制の構築。

- ・利用される方への3つの窓を避けてもらうよう、さらに注意喚起を行う。
- ・利用される方への体調の変化がないか聞き取りをさらにおこなう

- ・従業員のマスク、フェイスガードの着用、咳エチケット。
- ・従業員の体温確認。
- ・建物内外の定期的な消毒実施。
- ・チェックイン時検温による体温の禁止。
- ・外気と空気の循環。
- ・お部屋と従業員またはお客様同士の一定距離の確保。
- ・マスク着用または咳エチケット、アルコール消毒のお願い。
- ・右乗降の促進。
- ・体調不良時のお申し出のお願い。
- ・研発方法の変更。

・いかに今の配置基準が悪いかを思った。国も市も、もっと基準の見直しをしてほしい。
(小学校でも20人学級をとの要求がでているが・・・)

- ・今までしていた事を継続していく。窓口にビニールカーテン、オゾン発生器の仕様、マスクの着用、定額時間等の表示、消毒薬の仕様、手洗いの回数を増やす。

・今までと同様、全員が集まる行事は分散して行う方法を考えやすく中止ではなく、できることは行っていく。(今後の感染拡大状況によってかわる)

・今までの対策が効果があると認識している。又、弊社では罹患者がないことがその理由でもあるかと考えます。早くワクチンが出来れば、これが一番の対策と考えます。

- ・大型コロナ換気システム導入済、感染防止宣言ステッカー取得済、非接触型体温計の増設。
- ・オンライン療育。
- ・会議打合わせ実施内容の簡潔、会場の設定、TV電話会議、ICTの活用。
- ・会社の方針による(ホームページ参照)、結局独自対策は立てられない。
- ・ガイドラインに沿った対策の実施を中心にしています。(経団連・農水省)

・行事の持ち方として保護者参加は中止したり、密にならないように人数の制限をしている。地域参加の行事は中止している。行政の指示に沿って運営する。

・クラスター発生しないようオンライン化を進めている。ZOOMで勉強会、打ち合わせ、会議をしています。高齢者はガラ携帯の使用がおおく、スマートフォンを使ひこなせていません。体調が悪くなくても病院へ行くのが怖い、タクシーも怖くて乗れないと訴えてきますが、スマートフォンでオンライン診療等できる様にスマートフォン養成講座(スマートフォン使用できない人が受講し教えられる立場)になる人を教から開始予定。

・検温、マスク着用をお客様、スタッフ全員に求めるとともに、気の緩みと、濃厚接触を如何に避けるかを運営システムの中で定めます。

- ・風をまったく移動が必要な際は報告させる。(不要不急について)
- ・次亜塩素水やマスク等のように情報がわかるので、正しい情報を入力し、よりよい予防対策に努める。

・自施設で感染が発生した場合の対応マニュアルを、その時の職員の数、利用者の状況に応じて何通りか作成し、職員間、連携チームで共有する予定。

・出張や会議時間の短縮、テレワーク、時差出勤

・上記の対応の徹底と、スタッフのプライベート生活にいても感染リスクの高い場所を避け、体調管理をしっかり行い、常に意識し、自分を守り、利用者を守り、施設を守りたいと考えています。利用者、入所者、スタッフへの周知、啓発の手をゆるめない事です。

・職員は発熱、気道症状、強い全身倦怠のいずれかがある場合、責任者へ報告し就業しない。新しい生活様式を遵守する。

・新型コロナに対するアンケートの実施。コロナありまでの営業形態にしていくこと。

・少しでも体調変化があればPCR検査を受けてもらう。又は窓口にご相談にいく。今までの感染予防対策の徹底。

・長期間の対応になる為、長い目線で様々な対応を考えています。どれも本当に良いのか悪いのか不安な状況です。

- ・手洗いと消毒の実施でマスク。支援の際の手袋も伝えています。
- ・布マスク作りの講習会を開いた。

・引き続き、換気、消毒、マスク着用を行っていく。保育園など、密はなかなか避けられないが、できるだけ人が多く集まらないよう(行事等)工夫していく。

- ・弊社の津波避難所をいかに感染予防を行うか検討。
- ・保護者参加の行事を延期、または子ども達だけで実施。
- ・面会制限の継続。面談室などの透明フェルターの設置。外部ボランティアの中止継続。
- ・予防方法ポスターの掲示を行い感染予防への意識付けと予防法の周知、啓発を図る。
- ・リモート開催の会議や研修会等に参加できるよう、インターネット等環境整備を検討中。

・数ヶ月前からの感染リスクがあるため、スタッフ自身の感染予防の徹底が必要であるが、長時間になりストレスにもなっておりストレスケアが必要である。外出や外食なども控えてもらっているため、休日の過ごし方が課題となり、意識変更が必要だが、どこまで切り替えができるのか以前のようシステムでないやり方等が必要であり、慣れるまでにどの程度かかるか不明になっている。

問7 活動の休止等に代え、新たにおこなった 取り組みがありましたら記入ください

・休園中、自宅待機中のご家族・親子で楽しんで頂けるようにYouTubeにて、保育園オリジナルの【英語プログラム】【食育（おやつ作り）】等の配信をする。※皆様、多いにご活用下さり、楽しんでいただけた。

・行事内容を変え、保護者が参加しない催しを行った（行う）
・園全体での行事と学校毎の行事に変更
・行事の中止に伴って、保育内容を見直し

・子ども達の活動の様子を動画にとり、保護者限定で公開
・保育士が手遊びやペープサートをしたものを動画にとり、保護者限定で公開

・調理余暇、プロジェクターを使ったビデオ鑑賞等、館内余暇の充実
・TEL確認、訪問、TV面会

・web営業

・Zoomなどオンライン会議の導入、遠隔支援の検討

・YouTube等でのイベント動画配信

・遠隔による授業

・園児たちが使用するおもちゃの消毒の回数を増やした。

・園のホームページなどで園の様子や遊びを発信した

・オンライン活用し相談、教育、又メール、電話もフルに活用した

・オンラインでのオープンキャンパス（広報活動）の実施

・外出が出来ない分、室内でのレクリエーションを強化した。

・外出支援が出来ない為、室内で物作り・音楽・英語・ダンス等室内で楽しめる行事を増やした。

・活動の縮小。1クラス単位での行事の進行

・家庭保育の子どもに、歌や絵本の動画配信をした。

・検温。子ども用玩具消毒。給食時、子どもが対面にならないように。常時換気

・ご自宅への訪問を行い、自宅でできるようにことを提案した

・今後、施設内にて職員がイベントを行っていく方向

・今後予定されていた保護者参加行事の中止。
（保育参観、親子遠足など）

・時差出勤実施、在宅ワーク、リモートワークの推進と模索の開始

・三密にならないよう活動を工夫する。しかし子どもが楽しかったと思うよう工夫する。

・施設内で出来るレクで楽しんでもらった

・舌根部への消毒薬原液の滴下。

・授産作業の受注量の減少を受け、新規取引先を2件開拓した

・手話劇をマミーで実施（少数制）

・電話による再診

・問4回答「学校ではなく、寮の食堂を使用しての授業」について。学校での行事が全て中止になり、外への活動は出来なかったが、学生たちは寮で他の寮生と料理を作ったり、話したりしたことで新しいつながりが出来、料理の腕も上がったと話していた。お互いの髪の毛を切り合ったり、淀川に夕日を見に行ったり、コロナがなければ気付けなかった事も多く体験したようです。看護師をしている母親の苦労や、友達たちとの協力の大切さにも気づいたと話していた。

・病院からの退院者については2週間の個室での対応

・ホームページの見直し・機関紙の配信

・メールやTELでの安否・会話をする事で安心する取り組み（ボランティア活動において）

・老人センター休館の間、毎月発行しているセンターだより、ホームページ等を活用し、注意喚起を呼び掛けるとともに、虚弱にならないような情報提供や自宅で楽しんでもらえるよう、脳トレ、地元淀川区に関するクイズ、電話による相談、さらに川柳・俳句の作品募集を行った。

問7 活動の休止等に代え、新たにおこなった 取り組みがありましたら記入ください

・休園中、自宅待機中のご家族・親子で楽しんで頂けるようにYouTubeにて、保育園オリジナルの【英語プログラム】【食育（おやつ作り）】等の配信をする。※皆様、多いにご活用下さり、楽しんでいただけた。

・行事内容を変え、保護者が参加しない催しを行った（行う）
・園全体での行事と学校毎の行事に変更
・行事の中止に伴って、保育内容を見直し

・子ども達の活動の様子を動画にとり、保護者限定で公開
・保育士が手遊びやペープサートをしたものを動画にとり、保護者限定で公開

・調理余暇、プロジェクターを使ったビデオ鑑賞等、館内余暇の充実

・TEL確認、訪問、TV面会

・web営業

・Zoomなどオンライン会議の導入、遠隔支援の検討

・YouTube等でのイベント動画配信

・遠隔による授業

・園児たちが使用するおもちゃの消毒の回数を増やした。

・園のホームページなどで園の様子や遊びを発信した

・オンライン活用し相談、教育、又メール、電話もフルに活用した

・オンラインでのオープンキャンパス（広報活動）の実施

・外出が出来ない分、室内でのレクリエーションを強化した。

・外出支援が出来ない為、室内で物作り・音楽・英語・ダンス等室内で楽しめる行事を増やした。

・活動の縮小。1クラス単位での行事の進行

・家庭保育の子どもに、歌や絵本の動画配信をした。

・検温。子ども用玩具消毒。給食時、子どもが対面にならないように。常時換気

・ご自宅への訪問を行い、自宅でできるようなことを提案した

・今後、施設内にて職員がイベントを行っていく方向

・今後予定されていた保護者参加行事の中止。
(保育参観、親子遠足など)

・時差出勤実施、在宅ワーク、リモートワークの推進と模索の開始

・三密にならないよう活動を工夫する。しかし子どもが楽しかったと思うよう工夫する。

・施設内で出来るレクで楽しんでもらった

・舌根部への消毒薬原液の滴下。

・授産作業の受注量の減少を受け、新規取引先を2件開拓した

・手話劇をマミーで実施（少数制）

・電話による再診

・問4 回答「学校ではなく、寮の食堂を使用しての授業」について。学校での行事が全て中止になり、外への活動は出来なかったが、学生たちは寮で他の寮生と料理を作ったり、話したりしたことで新しいつながりが出来、料理の腕も上がったと話していた。お互いの髪の毛を切り合ったり、淀川に夕日を見に行ったり、コロナがなければ気付けなかった事も多く体験したようです。看護師をしている母親の苦労や、友達たちとの協力の大切さにも気づいたと話していた。

・病院からの退院者については2週間の個室での対応

・ホームページの見直し・機関紙の配信

・メールやTELでの安否・会話をする事で安心する取り組み（ボランティア活動において）

・老人センター休館の間、毎月発行しているセンターだより、ホームページ等を活用し、注意喚起を呼び掛けるとともに、虚弱にならないような情報提供や自宅で楽しんでもらえるよう、脳トレ、地元淀川区に関するクイズ、電話による相談、さらに川柳・俳句の作品募集を行った。

問8 貴団体の業種は何ですか

n=188

